

目次

はじめに

7

第一章 菊池寛、その人と思想

一 その生涯

14

学歴の曲折／同性愛趣味のこと 職業作家への道／文壇の大御所へ
／戦争協力をめぐって

二 その思想

27

事業としての文筆／劇作家を目指した理由／バーナード・ショーの影
／ギルド社会主義と伝統復興／ロマンティズムとヒューマニズムの内実
／陽明学左派の影／人情の機微／幻滅というテーマ／私小説
／講談読み物という土台／純文学から通俗小説へ？／挪揄の標的
／ふたつの文壇をつなぐ／事後的解釈

第二章 菊池寛のエディター・シップ

「文藝春秋」という雑誌

64

「文藝春秋」の創刊／菊池寛神話へ／雑文雑誌として出発／文壇予備軍の増加
／リトル・マガジン 当時の総合雑誌／婦人雑誌の伸び／春陽堂と菊池寛
／講演会とコシツフ／「中央公論」に学んだもの

二 事業の展開

82

震災の打撃／総合雑誌へ／芥川龍之介の死を超えて／清新な自由主義
「文藝春秋」の位置

第三章 「文藝春秋」と日中戦争

一 満洲事変とその後

98

九三〇年の満洲訪問 満洲事変 「満洲国」建国 国際的孤立のなかで
／ピリニヤーク座談会 佐野・満山の転向声明 血盟団と五・一五事件
「話」の創刊と文士劇 大アジア主義と国家革新のうねり
文藝懇話会のこと 近衛文磨の寄稿 危機の到来に、どう応えたか

二 日中戦争へ

124

芥川賞、直木賞の創設 吉川英治の革新志向 「宮本武蔵」の思想
フランスム対人民戦線 「文藝春秋」一五周年 戦争拡大に反対

／南京大虐殺／人民戦線事件／Japan Today 戦争の泥沼化 一九四〇年
日中戦争と菊池寛

第四章 「文学界」の人びと

小林秀雄の転向

菊池寛、「文学界」を救う 小林秀雄「菊池寛論」／菊池寛の文学観

／小林秀雄「私小説論」 伝統の再評価 小林秀雄の狙い／戦争という異常事

日本人の心／日本的なるものをめぐって 「思想」日本精神特集 実験的精神

二 「文学界」グループの日中戦争

林房雄の場合／新体制運動へ／横光流「近代の超克」 川端流「近代の超克」

三 好達治の場合／平和への祈り

152

第五章 文春グループの大東亜戦争

一 大東亜戦争

開戦 香港陥落／戦争協力の掘り下げ シンガポール占領

／満洲事変の事後的解釈

196

二 文学報国会の活動

文学報国会／知的協力会議「近代の超克」 中村光夫の立場／伝統の再編

座談会「世界的立場と日本」 大東亜戦争肯定論／大東亜文学者大会

二元的精神生活／二正面作戦 南京大会前後 川端康成の場合

『文藝春秋』、文藝雑誌に

205

第六章 文春グループの敗戦

一 菊池寛の敗戦

文藝春秋社の解散 戦争責任論 公職追放 文春グループの避難所

配給された自由／天皇の戦争責任

236

二 成さの構図

フランスム対デモクラシーの図式 菊池寛の最期／文藝春秋グループ、その後

248

参考文献

あとがき

人名索引

270 258 255